

三条市子ども・若者総合サポートシステム
平成 23 年度活動実績・平成 24 年度活動計画
【障がい支援部会】

《平成 23 年度活動実績》

1 障がい支援部会 対象者の把握状況と対応

(1) 把握件数（平成 24 年 3 月末現在）

区分	障がい			
人数（人）	291			
他の区分と重複している件数	虐待 19	非行 2	不登校 6	若者 1

(再掲)「個人情報の取扱いに関する同意書」提出件数

区分	障がい
人数（人）	34

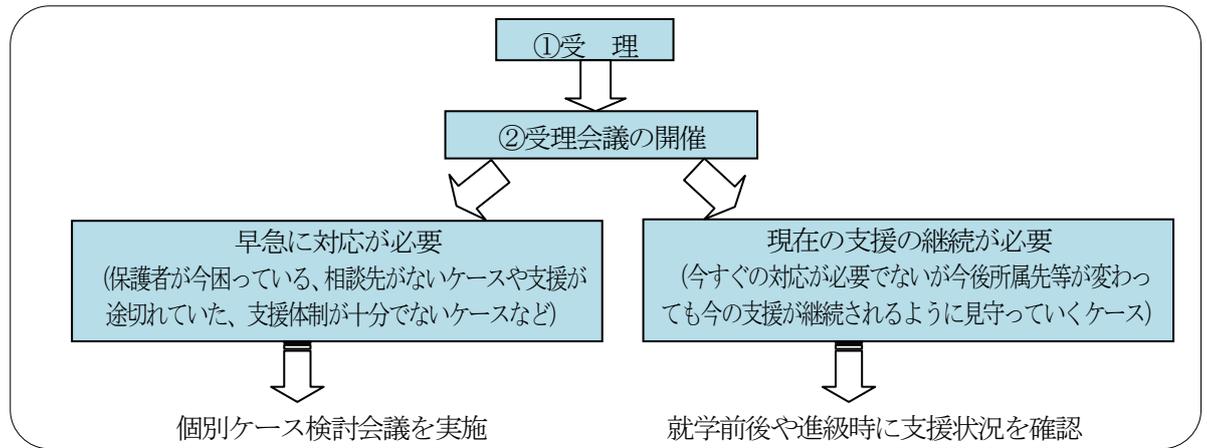
(参考 1) 平成 24 年度特別支援学級に在籍する児童生徒数ならびに学級数

学級種別	区分	市内小学校		市内中学校		計	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
知的障害学級		18	61	9	37	27	98
自閉・情緒障害学級		20	93	8	43	28	136
その他（肢体不自由・病虚弱）		1	1	1	1	2	2
合 計		39	155	18	81	57	236 (2.85%)

(参考 2) 平成 23 年度通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒数

問題項目	区分	市内小学校		市内中学校		計		国の平均
		人	%	人	%	人	%	%
学習面か行動面で著しい困難を示す		401	7.5	115	4.0	516	6.2	6.3
学習面で著しい困難を示す		233	4.3	61	2.1	294	3.6	4.5
行動面で著しい困難を示す		252	4.7	84	2.9	336	4.1	2.9
学習面と行動面ともに著しい困難を示す		84	1.6	30	1.0	114	1.4	1.2

(2) 「個人情報の取扱いに関する同意書」受理後の対応



(参考) 同意が無い「障がい」把握者への支援

乳幼児の場合→保健師、保育所（園）、幼稚園の保育士等の支援

小中学生の場合→学校での通常支援及び、通級指導教室（三条小学校・長沢小学校）や市が委嘱した特別支援学校職員による専門指導員の巡回支援等

2 障がい支援部会 会議開催状況

会議名	月 日	場 所	内 容 等	参加機関数
実務者会議	9月27日	三条市役所 栄 庁 舎	・三条市子ども・若者総合サポートシステムにおける個別支援の状況（報告） ・障がいを持つ子ども等への支援の状況（情報交換・意見交換）	14機関
個別ケース検討会議	実1件 延1回	発達障がい疑われる中学卒業後在宅生活を送る子どもの進学後の支援について検討を行った。		

3 研修会・講演会

題名	月 日	場 所	内 容 等	参加人数
第1回 発達応援セミナー (特別支援教育講演会)	【目的】人とかかわりに困り感を表す子どもたちに対する理解とその対応について学ぶことで、特別支援教育に携わる教職員の指導力の向上を図る。			
	8月4日 (木) 13:50～	燕 三 条 地 場 産 業 振 興 セ ン タ ー リ サ ー チ コ ア	演 題:教室の中で人とかかわりに困り感を表す子どもたちへの対応 講 師:新潟大学 講師 七里 佳代 氏 対 象 者:教職員、特別支援教育指導員、スクールアシスタント、市民	307人

題名	月 日	場 所	内 容 等	参加人数
第2回 発達応援セミナー	【目的】 保護者や保育・教育関係者が発達障がいとその行動について広く理解しその子に合わせた対応がなされることで、発達障がいをもつ子どもが育ちやすい環境づくりを目指す。			
	1月14日 (土)	三 条 市 総合福祉 センター	演 題：「知ってほしい！発達障がい」 ～子どもの豊かな育ちを支えるために～ 講 師：新潟県はまぐみ小児療育センター所長 東 條 恵 氏 対象者：市民、教職員等	180人

4 成果・課題

活動の成果	活動から見てきた課題
<ul style="list-style-type: none"> 障がいがある子どもに関わる実務担当者が参集し、それぞれの支援に関する現状・課題を共有する場がもてた。 発達応援セミナーを開催し、発達障がいに関心のある方が多いこと、対応に困っている方が多いことがわかった。職場など大人の発達障がいの疑いのある方への対応について悩んでいることもわかった。 多くの市民に対処方法について普及することができた。また、市民から発達障がいに関する多くの意見を聞くことができ、支援体制の構築についてのヒントが得られた。 子育て支援課－学校教育課－各学校の連絡と連携のシステムが整備された。保護者からの相談に対して、スムーズに対応できるケースが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障がいの正しい理解と対応方法について家庭や学校などの社会生活の中でのさらなる啓発の必要がある。 実務担当者間で発達障がいの支援体制について課題整理し、支援体制の構築の検討をしていく必要がある。 サポートシステムによる支援を必要としている本人・保護者に対する周知が十分でない。進級・進学などで所属が変わる時や義務教育終了後等機会を捉えて周知していく必要がある。 小中学校の特別支援の学級担任等の実務担当者に当システムの存在については知られてきているが、具体的な活用について十分周知されているとはいえない現状があり、特別支援コーディネーターに対しての啓発が必要である。 支援のツールとしての「すまいるファイル」の活用が十分進んでいないため、今後も普及を進めていく必要がある。

《平成24年度活動計画》

1 会議開催予定

会議名	回	月	場 所	内 容 等
実務者会議	第1回	9月上旬	三条市役所 栄庁舎	発達障がい支援体制について（仮）
	第2回	1月	三条市役所 栄庁舎	第1回で出された問題及び課題について検討
個別ケース検討会議	随時	支援体制の検討が必要なケースについて関係者で検討を行う。		

2 周知活動

(1) 市民に対して

- ・早期療育事業等の利用児をはじめとする小学校就学前の子どもの保護者に対し、総合サポートシステムについて周知
- ・早期療育事業利用者へすまいるファイル「支援の記録」の活用の周知

(2) 関係機関に対して

- ・関係機関実務者に対し、支援が必要な子どもに関するすまいるファイルの活用について周知
- ・小中学校の特別支援コーディネーターを対象に、総合サポートシステムの運用及びすまいるファイル活用について周知

3 研修会・講演会

題名	月 日	場 所	内 容 等	参加 予定人数
第1回 発達応援セミナー	【目的】 個別な教育的ニーズがある児童生徒に対する理解とその対応について学ぶことで、特別支援教育に携わる教職員の指導力の向上を図る。			
	8月8日 (木) 13:50～	総合福祉センター 多目的ホール	演 題：未定（個のニーズに応じた主体的な参加を促す授業づくり） 講 師：筑波大学 教授 藤原 義博 氏 対象者：教職員、特別支援教育指導員	400 人
第2回 発達応援セミナー	【目的】 保護者や保育・教育関係者が発達障がいとその行動について広く理解しその子に合わせた対応がなされることで、発達障がいをもつ子どもが育ちやすい環境づくりを目指す。			
	未定	未定	発達障がいへの理解や対応についての研修会 演 題：未定 講 師：未定 対象者：市民	150 人